

事例検討の意義と理解

明治学院大学 新保美香

あなたは日頃
「事例検討」を
行っていますか？

1. 事例検討とは？

事例検討（会）は、
ケースカンファレンスと同義
で用いられており、様々な専
門職種が一堂に会して援助、
支援の方向性を検討する場、
機会である。

出典：植田章「ケースカンファレンスの技術」
新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』
（中央法規出版、2010年、206～208頁）

2. 事例検討の目的

1. 対象事例を丁寧に振り返ることによって、課題の実現を妨げている要因・原因を明らかにすること。
2. 職員の教育・研修の機会とすること。
3. 関係機関・専門職種との連携・協力・協働関係を築き上げていくこと。
4. 福祉課題を発見し、地域のネットワークの構築と社会資源の創造に結びつけていくこと。
5. クライエント（利用者）の豊かな生活、継続的な支援を実現すること。

出典：植田章「ケースカンファレンスの技術」
新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』
(中央法規出版、2010年、206～208頁)

3. 事例検討の意義

1. 担当者が問題・課題を抱え込むことを回避する。
2. さまざまな職種が、課題を全体で共有できる。
3. 援助・支援の方法が広がり、問題・課題を拾い上げる網の目（セーフティネット）が細かくなる。

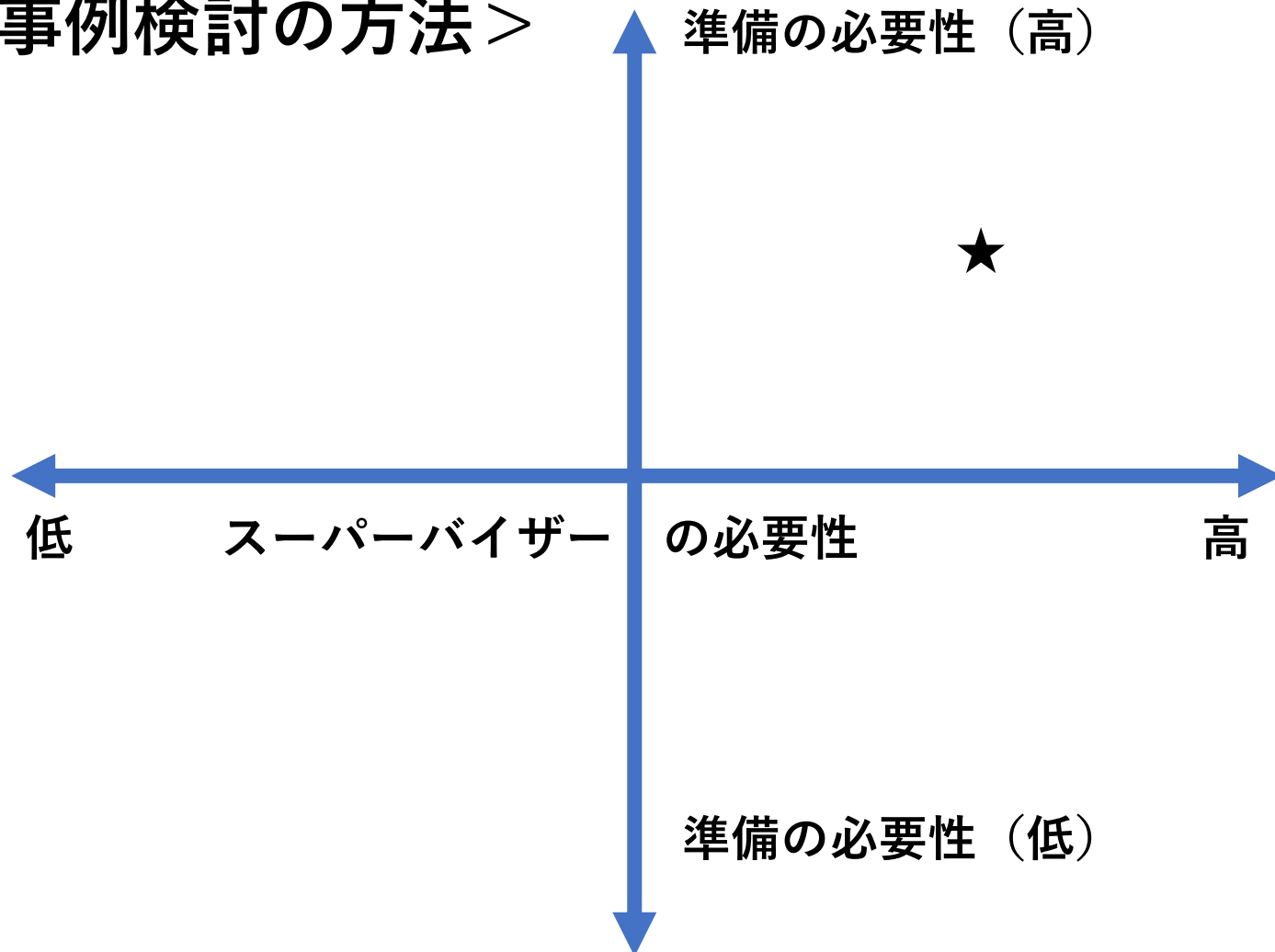
出典：植田章「ケースカンファレンスの技術」
新・社会福祉士養成講座『相談援助の理論と方法Ⅱ』
(中央法規出版、2010年、206～208頁)

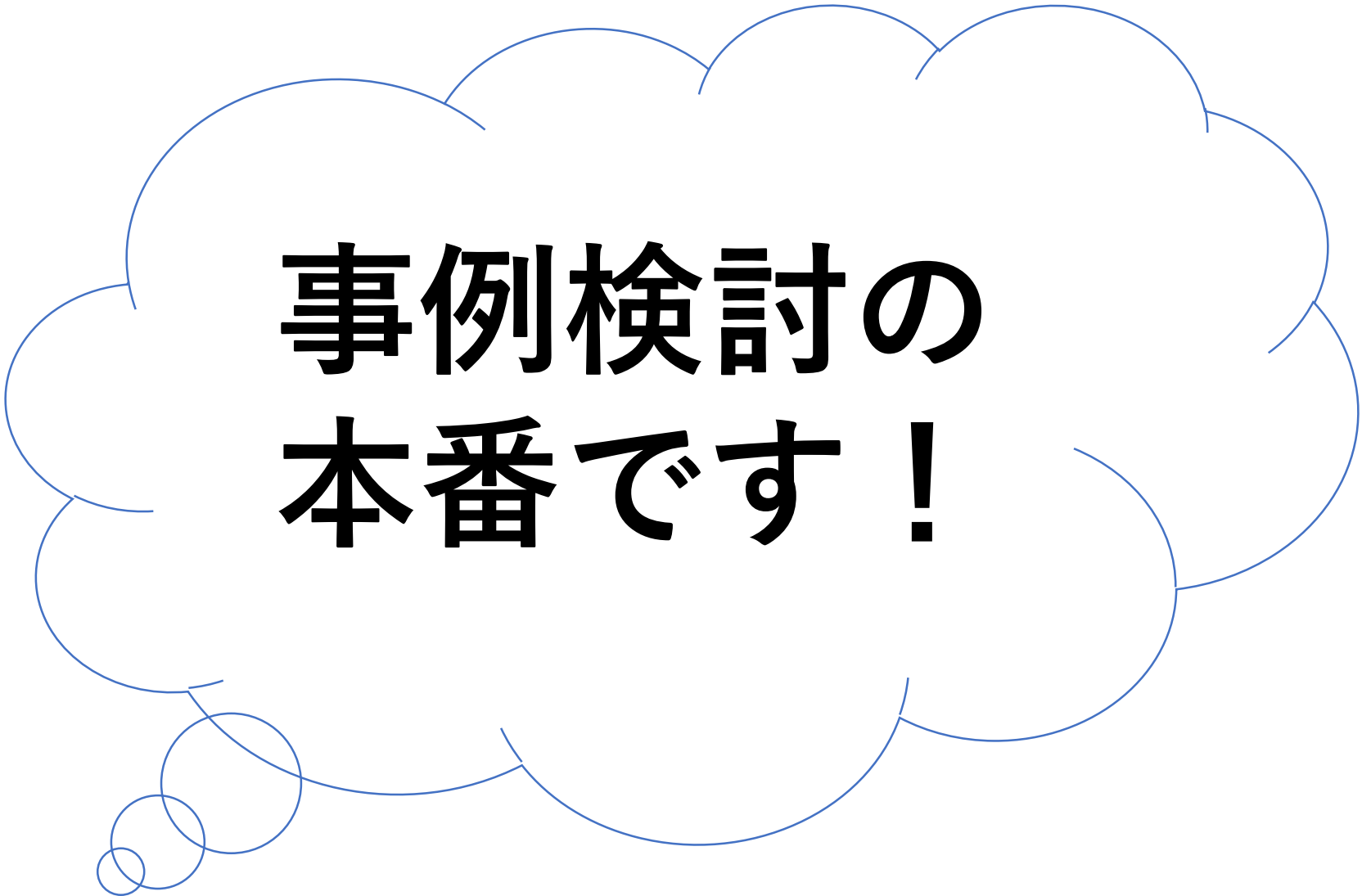
4. 事例検討のポイント

1. 「うまくいかない経験を大切にする」という姿勢の共有。
2. 事例提供者の想いを傾聴し、事例提供者ができる範囲で支援のサポートを、支援の方向性を決めること（事例提供の決定を避ける。）
事例提供者が「ムム」や「ああ」を避ける。
3. ストレングス視点を持ち、利用者、支援者、環境のストレングス（強み）を生かす。
メソッドやテクニックに生かす。
4. 利用者を置き去りにしない。（利用者を実現可能なかどうかが、利用者主体とするものとなっているかを確認する。）

5. 本日の事例検討は...

< 事例検討の方法 >





**事例検討の
本番です！**